

緑土会 会報・ホームページ部会だより

平成元年卒 小口新吾

皆さんこんにちは、今回、部会だよりを担当します東京都庁の小口です。

第一号より「土木を志した理由」についてのテーマで書かれていましたが、私自身、土木工学科を志望した理由も曖昧で、また、在学中は、アメリカンフットボールを中心に活動し、バブルの恩恵で就職したこともあり、あまり良い話できません。

そこで、土木職の行政マンの魅力を皆さんにお伝えしたいと思います。

土木職の行政マンの魅力は、何と言ってもまちづくりの各段階で各種事業に携われることだと思います。つまり、構想や計画から、インフラ整備までの各段階において、様々な立場で土木技術者として活躍することができます。

私自身、最前線の現場で設計、工事に携わることもあれば、各種計画の策定や資産の運用管理、事業調整などに携わりました。

事業では、多摩ニュータウンや奥多摩の山岳トンネル、給水場の整備、東京外かく環状道路、ハツ場ダムなど、数多くのプロジェクトに関わってきました。

どれもこれも思い出深い仕事で、一言では語りつくせないものですが、紙面の関係上ここまでしておきます。

また、二つ目の土木職の行政マンの魅力は、事業主体となれることです。

行政ですから当然発注者となるのですが、各プロジェクトの主体となって進めることができます。

その中で、私が経験した最も思い出深い事業は、環状第二号線新橋・虎ノ門地区市街地再開発事業です。わかり易く言うと、虎の門ヒルズを建てた市街地再開発事業です。今さら解説することは無いと思いますが、再開発で道路用地を確保し、地下のトンネル上部に52階建ての高層ビルを建築しました。

私は現場の課長として、事業の進行管理、関係者調整などを行いました。残念ながら、再開発ビルを建築する事業者を決定したところで異動となり、プロジェクトから離れることになりましたが、パースで描いたビルが、現地に実際に建っているところを観た時には、大変感動しました。

如何でしょうか？多少は土木職の行政マンの魅力が伝わったでしょうか？

現在東京は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、様々なまちづくりのプロジェクトが進んでいます。

これからも、わくわくする仕事に携われると、大いに期待しています。